

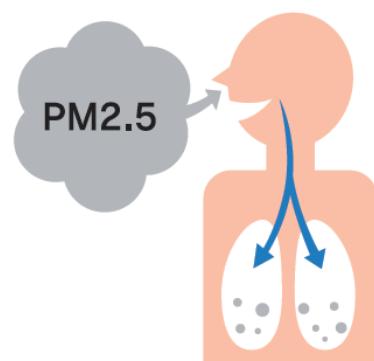
# ほかんけんだより



## PM2.5に関する調査研究について

PM2.5とは、大気中にある大きさが $2.5\mu\text{m}$ (マイクロメートル※)以下の粒子のことで、発生源には①自然由来、②人間活動によるもの、③空気中の化学物質の反応によるものがあります。

また、PM2.5は非常に小さいため、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系への影響に加えて、循環器系への影響が心配されています。(※ $1\mu\text{m}$ は $1\text{mm}$ の $1000$ 分の $1$ )

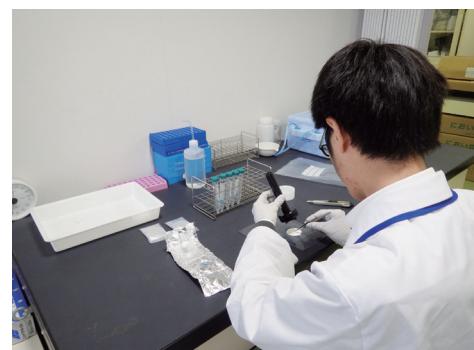


## PM2.5の成分分析

PM2.5の対策や人の健康への影響を検討するためには、PM2.5にどのような成分が含まれているかを調べる必要があります。そこで、福岡市保健環境研究所ではPM2.5に含まれる成分の分析を行っています。



PM2.5のサンプリング

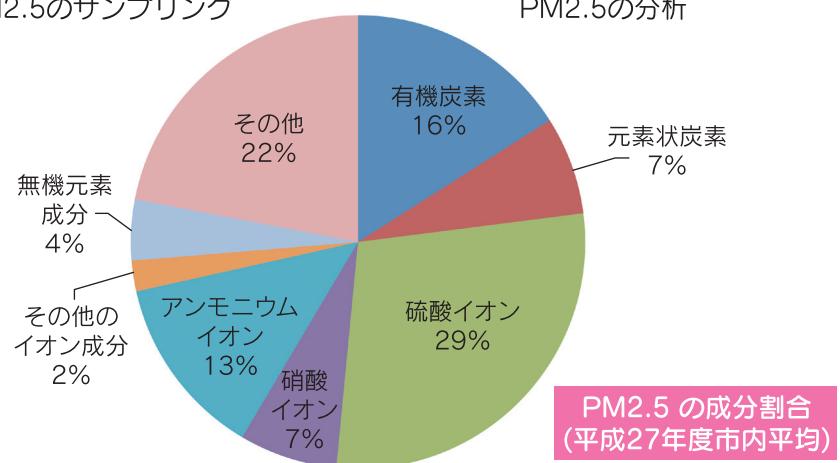


PM2.5の分析

右のグラフは、平成27年度のPM2.5の成分割合(市内平均)を示しています。

分析の結果、硫酸イオンの割合が最も大きく約3割を占めていることが分かりました。

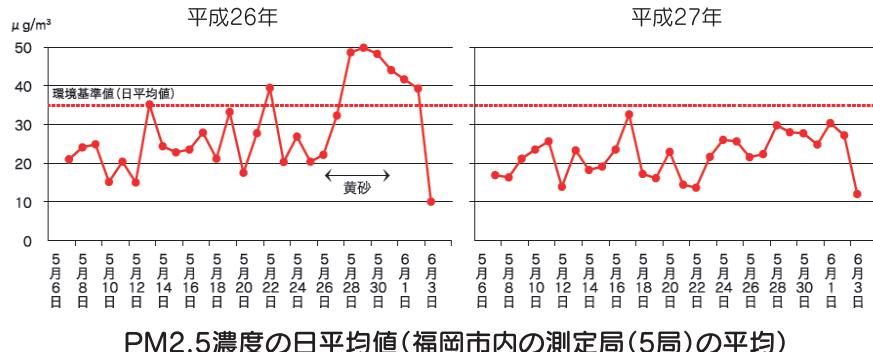
国外からの越境汚染の影響が大きい場合は硫酸イオン濃度が高くなるとの報告もあることから、福岡市では引き続きPM2.5の成分分析を行い、実態を調査していきます。



# PM2.5の健康影響調査

福岡市では、PM2.5による小児への健康影響を調べるため、国立環境研究所、京都大学と共に、平成26年と平成27年のそれぞれ約1か月間、市内の小学校の4~6年生のべ約3千人を対象にアンケート形式の調査を実施しました。

調査期間中のPM2.5濃度の日平均値は、平成26年は環境基準値の35  $\mu\text{g}/\text{m}^3$  を超えた日があり、黄砂も観測されましたが、平成27年は環境基準値を超えた日はありませんでした。



調査の結果から、調査期間中のPM2.5の濃度と小児の呼吸器・アレルギーに関する自覚症状との関連はみられませんでしたが、PM2.5濃度の上昇によりマスクの着用の増加がみられたことから、PM2.5の情報を入手することなどにより、予防行動をとっている可能性が示唆されました。

## PM2.5の予測に関する情報

福岡市では、市民の生活や健康への影響を未然に防止するため、ホームページや防災メールなどで福岡市PM2.5予測情報を提供していますので、ご活用ください。

<福岡市ホームページでの表示>

現在、注意喚起は行っていません。

**レベル1** 注意喚起は行っていません。  
ただし、呼吸器系疾患や心疾患、アレルギー疾患がある方は、以下の内容を参考に行動してください。

**【行動のめやす】**

- 外出するときは、マスクを着用しましょう。
- 外出から帰ったら、目を洗い、うがいをしましょう。
- 空気の入替は控えましょう。
- 車の運転時は窓を閉めるようにしましょう。

**レベル2** 注意喚起を行っています。  
市民のみなさんは、  
以下の内容を参考に行動してください。

**【行動のめやす】**

- 不要不急の外出や屋外での長時間の激しい運動をできるだけ減らしましょう。
- 換気や窓の開閉を最小限にし、室内への外気の侵入をできるだけ少なくしましょう。
- 高感受性者においては、体調に応じて、より慎重に行動することが望まれます。

福岡市PM2.5 予測情報ホームページアドレス

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-hozan/life/kankyochozen/PM25information.html>

編集・発行 福岡市保健環境研究所

〒810-0065 福岡市中央区地行浜2丁目1-34

TEL:092-831-0660 FAX:092-831-0726

E-mail:hokanken.EB@city.fukuoka.lg.jp

URL:<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/>

ホームページも是非ご覧ください

廃棄物資源化担当及び

廃棄物処理施設担当の事務所

〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭4丁目13-42

TEL 092-642-4570 FAX 092-642-4595

